



一般社団法人

ロゴス腹話術研究会

2022年5月23日

会報

第20号

コロナの中でも、楽しい腹話術のために

かまどたつお

聖書：そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

(マタイによる福音書25:40)

2020年の1月から始まった新型コロナウイルス感染症の出来事は、わたしたちの日常生活を一気に変える大きな出来事でした。あの時の3月には、各地で小学校から高校までの休校が始まりました。それは4月になっても変わることはなく、学校の9月入学が真面目に論じられていたのです。

それから2年が過ぎました。ワクチンの接種はそれなりに進み、新型コロナウイルスも変異種が次々に出てきました。注意しなければならぬことはまだまだたくさんあります。その一方では、コロナ後を見据えた施策がとられるようになってきています。病院も行政も、冷静な対応になっていて、社会も落ちついてきたなという感じを受けるようになりました。



わたしは能登の小さな教会の牧師です。また同時に、その能登にある2つの教会関連学校法人の責任を負っています。その法人は幼稚園・保育園・放課後児童クラブ・児童館の運営責任を行っています。ですから、この新型コロナウイルス感染症対策は、この2年間の最重要課題でした。

「めったに会わない人とは、会わない」が徹底され、様々な会議が面談の会議方式からWEB会議となりました。

園や施設の諸行事の持ち方にも、大きな変化がありました。どの場面でも感染症対策が必須でした。「密」を避け、「換気」を徹底し、「検温・消毒」は当然でした。子どもたちにはなかなか難しいマスク着用も、職員は当然でしたし、諸行事に出席して下さる保護者の方も、マスクは必須でした。

中止になった行事は数知れずありました。現実を受け入れながらも、その地域に感染者が少ない状況ならば、なんとか行事を継続したい。当たり前を当たり前とするための工夫が、どうしても必要だったのです。

子どもたちには具体的な経験が必要です。日常の保育での具体的な当たり前の経験は当然として、年に数回行われる劇団の公演やミニコンサートなどの「生の公演」も、当然必要です。なくすわけにはいきません。

けれども、遠くから人を招くわけにはいかない。日時も、日程も、その時々で、臨機応変に変更しないといけない。誰にお願いするか、工夫が必要でした。

そんな時なのです。地元の、近いところに住んでいる、気安く呼べる「腹話術のかまどたつお」。コロナ禍にあつた公演は、それなりに依頼があつたのです。

だってそうでしょう。「ごめんなさい、園児の保護者の方に感染者がありましたから、本日の腹話術は中止にします。また別の機会をお願いします」。そんな連絡で、かまどたつおの場合はすむのですから…。だから、予告のない、本日の特別イベントとして、腹話術のかまどたつおは呼ばれていたのです。自分が責任を持つ法人の施設だけではありません。いつも顔を合わせているよく知っている園長先生からも、「来ていただけますか?」。ささやかな人気でした。

不思議な公演です。感染症対策が第一の行事での腹話術です。マスクをしないで、子どもたちの前に出ることは許されません。

腹話術なのに「マスク」は必須なのです。

ですから、園長室で打ち合わせ。わたしが口火を切ります。「感染症対策が必要ですから、マスク着用で、行いま

す」。園長先生が当然のように「そのようにお願いします」。ところが、主任の先生が気づくのです。「マスクをして、腹話術ですか?」。そしてわたしが答えます。「近頃、わたしの腹話術は、とっても楽になりました」。和やかな笑いのまま、子どもたちの前に出て行くのです。

けれども、その後の腹話術のステージは、マスクなしの時と変わりません。子どもたちのまん丸お目めも変わらないし、子どもたちのとんがりお口も変わらないし、子どもたちのはじけるような笑い声と笑顔も変わりません。

それはそうでしょう。わたしたちロゴスの腹話術は、腹話「術」を見せる腹話術ではありません。お人形さんとの言葉の交流、心の交流、そして何よりもお客様との心の交流を基本とする春風イチロー師匠から学んだ腹話術なのですから。

子どもたちに笑いは必要です。子どもたちに、生の公演は必要です。子どもたちに本物の芸を見てもらうことは必要です。

たとえどんな時代になったとしても、たとえどんな状況になったとしても、キリストと共にあって、笑いを届けるわたしたちは、絶対必要なのです。

(日本基督教団七尾教会牧師 釜土達雄)

亀鶴対談 ゲスト：春風イチロー師匠〈前半〉

1980年に「チャペルタイムス」という月刊誌に載った対談です。

島村亀鶴牧師（1900年～1993年没）は、明治学院大学理事長、学院長を勤められた当時の日本基督教団の主導的な牧師です。

イチロー師匠55歳。活気ある対談お楽しみください。2回に分けた前半です。



島村亀鶴牧師

春風イチロー師匠



エドガー・バーゲン氏とともに

春風 先生、僕は先生に新丸子の教会の就任式をやっていただいたんですよ、牧師の。覚えていらっしゃいますか？

島村 もちろん、覚えている。

春風 それから何年になるとお思います？28年ですよ。ウソみたい。

島村 28年にもなるの。

春風 足かけ28年。

島村 そうかねえ。驚いたなあ。長く続くかなあとつい思ったが…。

春風 就任式やって下さった先生が、続くわけねえって、
やられてる方も続くわけねえって、両方でそう思ってたんだから、
どうしようもないよお（爆笑）。



島村 わっはっはっはっ…。

春風 ただ、イエスさまだけが大丈夫って。おかしなもんだよ。笑ってるね、イエスさまが。

島村 えらそうに言ってるけど、これも奥さんのお陰なんだよ。

春風 (しみりと) そうですね。

島村 そうだよ、そうだよ。

春風 こうして、ああしてって、先生(島村)にコーチしてもらってね。先生は、牧師の牧師だからね。こういうふうにはほめなければ女の人はダメだとか、くどき方まで教えてもらったから。

島村 はっはっは…。今日は漫談をしに来たんじゃないんだ…。あのね、腹話術始めたのは、どうして? いつ?

春風 昭和16年の6月なんです。ものの本には昭和16年の10月から川田義雄および古川ロッパが初めて日本で腹話術をやったと書いてあるんです。ところが、その年の6月には、もう私はやってるんですよ。クラス会で。

島村 どの?

春風 法政ですけどね。中学3年でした。

島村 へええ。中学3年でねえ。

春風 だから、日本で初めて腹話術をやったのは僕なんです。

島村 元祖だね。

春風 ま、上手か下手かってところは、問題外ですけどね。やったということですね。

島村 初めてというと、教える人は?

春風 いるわけ、ないんですよ。エドガー・バーゲンとチャーリー・マッカーシーという人形を映画で見たんです。「腹話術師の恋」という映画で…。昭和16年の3月でした。

島村 腹話術を映画で見て、それが印象に残って、そんで、そのまねをしたってわけ?

春風 はい、はい。そうなんです。

島村 映画だけ?

春風 もちろん、そうです。腹話術師と名のつくのは、プロで有名なので27、8人いますけれども、これは全部、師匠は映画です。エドガー・バーゲンとチャーリー・マッカーシー。

島村 ほおお。

春風 だから、今、僕が腹話術を教えているのを「ロゴス腹話術研究会」と言っているけど、教える時は「江戸川馬言(エドガワバゲン)塾」(笑)。

島村 はっはっは…。

春風 神さま言葉だったらロゴスだけど、私の言葉だったら馬の言葉だっちゅうんで…。

島村 それで、子どものときはウグイスの声やとか、馬の声やとか、まねするの上手やったの?

春風 そうですね、(一気に)講談、落語、漫談、浪花節、清元、長唄、詩吟、常磐津、声色、端唄、小唄、歌沢、琴に三味線、奇術、腹話術…。

島村 小学校の時分から?

春風 幼稚園の頃からですよ。二年保育(笑)。

島村 じゃあ、小学校の時から、学芸会なんていうと、すぐやっちゃうわけ?

春風 「イチロー・アワー」っていうんです。今で言えば…。先々代の林家正蔵、亡くなられた三平さんのおとっつあんですが、とにかく、この子は大きくなったら何になるんだろうって言われたんですから。

島村 小さい時、そこに弟子入りしたわけ?

春風 弟子じゃないですよ。子どものことだから…。うちが「矢沢」という貸衣装屋だったから。浅草でも有名な。

島村 はああ、そういう関係で。

春風 で、芸能界にいろんなものもっていきますからね。

島村 なるほどねえ。

春風 門前の小僧、習わぬ経を読むって言うんでねえ、耳から入ってくる。これは、強いですよ。

島村 そう。

春風 前座話をね、子どもの頃に6つできたんですからね。

島村 驚いたなあ。

春風 先生が子どもの時に浪曲の前座ができたというのとおんなじです。

島村 うん。それがもう、腹の中にちゃんと入ったんだから、だから映画を見ただけで腹話術がまねできたわけね。途中からじゃ、できない。

春風 ただねえ、人には教えられなかったんです。

島村 なぜ？

春風 だってねえ。盗んだもんでしょ。バーゲンの腹話術をみんな盗んだもんだから、教えられないです(笑)。

島村 はははは…。

春風 十人やれば、十人とも違う。腹話術というのは。盗んでも、盗む方面が違うから。見た目は同じように人形としゃべっているけど、発声とか操作とか、みんな違いますよ。

島村 うん、うん。

春風 声帯模写がそうですよ。例えば美空ひばりだとか、森進一だとか、菊五郎だとか。でも、声帯模写が十人いると、十人違う菊五郎が出てくるんです。

島村 それは理屈だ、なるほど。

春風 ところが、結果においてはどこか似ているんですよね。似てなきゃ声帯模写にはならない。

島村 腹話術の歴史は？

春風 腹話術は1925年、大正14年にエドガー・バーゲンとチャーリー・マッカーシーが話をした。これが始まりです。バーゲンの前にバーゲンなく、バーゲンの後にバーゲンなして言うんですよ。

島村 日本の江戸時代だったら、そのくらいのこと言う人間がありそうなもんじゃがなあ。

春風 ないんです。それがありません。「肚言術(べんとりろきずむ)」という似たものはありましたがね。術者が一人で人形を操作してしゃべるといのは、バーゲンが初めてです。

島村 なるほど。

春風 そういう教わらない、教えない、教えることのできない腹話術をどうして教えるようになったかという、今からちょうど13年前のNHKの12月24日の晩のドキュメンタリードラマ「ある人生」で、「聖書と人形」という、この番組に出てね、NHKに2000通のリアクションがあったんです。牧師とあろうものが寄席芸人とは何ごととか、寄席芸人が牧師になれるはずがないとか…。

島村 うーん。

春風 でも、それがきっかけで、キリスト教の植村環先生の教会員で斎藤タキさんという婦人が、私に腹話術を教えてくださいとやってきたんです。で、「ああ、だめですよ。人には教えられない」と言うと、涙を流して、「私はイエスさまの前で腹話術をやりたいのです。この60になるまでイエスさまの前でやることは何もありません」と言われてね。私、ほろっときて…。

島村 それはえらいなあ。

春風 ええ。「それじゃあ、イエスさまの前で、よし、やろう」と言って。

島村 それにまいった。

春風 ええ、それにまいった。で、私一人の力では、いくらイエスさまの話をして、聖書の話をして、北海道から沖縄までたかが知れていますよね。そこで考える。孫悟空は頭の毛をとって、ペーって、小さい孫悟空をタアーンと出した。よし、あたしも人に教えて、春風イチローを出そうってんで、本格的に教え出したのが10年前になりますね。

島村 剣道みたいに級をつけてるね。なぜそんなものをこしらえたのかなあ？
春風 人間はやっぱり目標をもたないとね。
島村 そりゃあ、僕がやったら特級くらいになっとったなあ。
春風 先生、特級よお。いきなり「春風」差し上げますよ。春風カメツル（爆笑）。
島村 僕が1週間くらいで教えるというたらねえ、そんなわけにはいきませんって、断られちゃったよね。
春風 なんか、ありましたね。
島村 10年も前に。そんなのはだめだと言われてさ。破門されちゃった。
春風 入門しないうちに破門（笑）。

春風だより①

三つの袋

春風笑一

時は、草木が芽吹く2022年、3月27日（日）正午少し前、所は、仙台バプテスト神学校建物内の「いこいの汀教会」、行政上の旧地名（1965～1985年）は宮城県宮城郡宮城町、現在の新地名（1987年～現在）が、1987年11月仙台市との合併を経て、宮城県仙台市青葉区で、その青葉区を起点として山形方向へ向かう一般国道48号線に沿った芋沢盆地内の、某有名人と漢字が同じである事から一時マスコミに取り上げられ話題にもなった愛子（あやし）と呼ばれるJR愛子駅から徒歩13分、車で5分、距離にして971mの所に教会があります。

ウェブサイトには仙台バプテスト神学校の建物が掲載されていますが、そこの一室を借りての集会「いこいの汀教会」主日礼拝プログラムの締めくくり「取り」として、教会側の了承の下、春風笑一が、春風パウロ師（当時）原作「三つの袋」を、21世紀の現代に合うように少し手を加えさせて頂いて、腹話術演技を行いました。

少し手を加えた理由は、「三つの袋」の台本の原作そのままに、キリスト教関係の二つのグループで実演したことがありましたが、最初のグループは、20年ほど前に300人程度が入る大講義室の某キリスト教主義大学の礼拝集会時に実演で、その反応は、二十歳前後の視聴者が大多数でしたので、想定内でした。

2回目は3年ほど前に、責任者がクリスチャンの某会社のオフィスで7～8人程度が入る小規模の部屋で実演しましたが、見る側の年齢が30歳代以上の人々で、その反応は、前者の反応箇所とは一致していなく、前者とは違う想定外の反応が数ヶ所見られましたので、時代の変化への対応と新しい風を吹き込む必要を痛感しました。

時あたかも、「社会は病んでいる（Society is sick）」とある人が言っているように、私たちを取り巻く環境は、悪い方に向かっている様な気がしてなりません。外国にあってはウクライナへの侵略戦争などに見られる国と国との正常な関係の崩壊から生じる争い、地球規模では温暖化や震度5～6強クラスの地震などを含む頻発する自然災害に見られる地球環境の不調和、国内的には親殺し・子殺しなどを含む基本的人間関係の崩壊などが生じています。

このような状況の中、腹話術台本「三つの袋」は、新約聖書エペソ書6章1～3節と第一ヨハネの手紙4章8節に基



づいて成り立っており、台本の理念は、ずばり「神の愛に基づく家族の人間関係」と読み取って、現在、春風笑一が出席している教会で推し進めている初代教会の理念に基づく主日礼拝の集いで、腹話術の演技を行う事ができたのは、主なる神の確かな導きであった事を強く感じました。

現在、集っている教会では、牧会メンターを中心に、神の愛に基づいた「神の家族」のあり方や、その延長線上にある「共同体」のあり方、そして「初代教会」における、特に婦人達（男性も含む）の主への様々な奉仕活動が、家の教会を中心に初代教会を建て上げる中で、いかに重要であったかを学び、学んだ事を共に分かち合い、主の恵みを享受しているところです。

台本「三つの袋」は、単純な台詞から成り立っていますが、ロゴス腹話術研究会の創始者春風イチローの愛弟子の一人でもあった作者の春風パウロ師（当時）は、春風イチロー師匠がそうであったように、汗かき、頭かき、恥かきを何回も重ね、推敲の上に推敲を重ねて、何百回となく練習を重ね、何百回となく実演して、初めて出来上がった台本であったと推測されます。

今回、差し出がましくもその台本に、少し手を加えたという事については、ある種の緊張感が身体の中を走った事は否めませんでした。春風笑一が出席している教会が推し進めている「初代教会のあり方の理念」についても、時として未だに聖書の真意を的確に把握していない自分自身に気が付くことも事実です。腹話術台本の「三つの袋の家族のあり方の理念」と「初代教会の家族の理念」とが、「三つの袋」の台本に基づいた腹話術の演技をする事によって、今回、奇しくも部分的に重複している事に気が付きましたが、単純な台本の台詞の中にも、貴重な主の教えが刻み込まれていることに驚きもしました。

教会で実演する機会が与えられた「三つの袋」の台本は、ロゴス腹話術研究会の資料にも掲載されていて、貴重な台本の一つでもあります。少し手を加えて、実演して見ましたところ、次のような反応がありました。

仙台在住のアメリカ人の大学の英語の先生から「Thanks for the pics! 😊」。同夫人からは「久しぶりの馬場さん（春風笑一さん）の腹話術、楽しませていただきました 😊 ありがとうございます 🍀」。台湾から日本にいられて、教会礼拝集いに定期的に出席しているある女性宣教師の方は、「演技終了後いつまでも信ちゃん人形を抱いていたので、彼女のスナップ写真を撮ったり 📷」、演技終了後に牧会メンターの口から、「家族問題やロマ書16章を中心に家の教会とか、家の教会での夫人や女性の役割の重要性などについて、腹話術で実演してみてもどうでしょうか 😊」というような言葉が出てきたり、そして春風笑一にとって唯一**最も近い仲間**からの「信ちゃん、信ちゃん 😊」等の発言は、その日の場の雰囲気が「良かった」言えると思います。

この反応は春風笑一にとっては意外で、理由は、その日の腹話術の演技は、VTRを見る限り、決して上手な腹話術演技とは言えないにもかかわらず、良い反応があったのは、台本の原作の中に込められた福音のメッセージ、即ち「ロゴス」が働いたからだろうと思います。ロゴスが聖霊として働いたか、聖霊がロゴスとして働いたか、あるいは主と共にあるロゴスが働いたかは、春風笑一の理解を超えた範囲である事が解りました。

この台本の内容は、前述した新約聖書に、基づく「家族愛」であり、ロゴス腹話術研究会からのメッセージと言っても、決して言い過ぎではないと思っています。創始者の春風イチロー師匠や愛弟子たちが言及していますが、創始者春風イチロー師の言葉「人形と話をしてください。人形に声を出させてください。人形が生きるのです…人形に息をふきこむ者だけが、人形に生命を注入することができます」は、春風パウロ師によれば「意識する私（術者）と意識しないもう一人の私（人形）との霊的な会話術です…人形と術者と視聴者が、一体になったときこれを腹話術の『三角関係』と言います…人形と術者の頂点には主が立たれ、三位一体の腹話術が生まれます」であり、春風とんぼ師の言葉を借りれば「…いうなれば三角関係による『かよい』」であり、術者と人形と会衆の関係は、「絶対に『言』…『ことば』によらなければ完成しないと確信しました」となります。

春風笑一の基本的な考え方は、「術者自身を意識する私自身と意識しないもう一人の術者自身の私（人形自身）とのロゴス（神の言葉）の下にある霊的な対話で、換言すれば、術者と人形を線で結んだ瞬間に対話が始まり、対

話が始まった瞬間にその関係は底辺となり、その頂点には既にロゴスが存在していて三角形を作り上げている事を術者は意識し、次に、底辺をそのままにして三角形の頂点を観客側に向けると、頂点の一つ一つが観客になり、観客が10人の時は10個の三角形が出来上がっている事も意識して術者は演技を行うと同時に、術者と人形を底辺としたその背後の頂点にはロゴス（神の言葉）が存在している事をして意識している事」です。

家族関係も同様で、夫と妻の関係を三角形の底辺とした時には、その頂点には常に創造主なる神が存在し、その頂点を子供に向ければその頂点は子供になります。いずれの場合もロゴス（神の言葉）が前提となって、良い三角関係が成り立ちます。

従って「ロゴスの腹話術」は、「主なる神を頂点とした良い三角関係」と言えます。この良い三角形は三位一体を表し、「主への祈り」が加わる事により、生ける真の「ロゴス腹話術」が成立し、ロゴス（神の言葉）伝える事が出来ると確信しています。

春風だより②

春風イチゴ

人形さっちゃん、何のために生まれたの？
皆さんに会うために生まれてきたのかな？瀬戸内寂聴さんは、人間は何のために生きているのでしょうか…人を幸せにするため…と言われていました。私は、子どものために生まれてきたと思っています。



朝、子どもたちと歌います。
あさのあいさつ、おはよう…オハヨウ
みんなげんきに、おはよう…オハヨウサン 子ども達ケタケタと笑う
おててとおててがお友達になっちゃった ナッチャター

何もまだしゃべれない0歳児、るなちゃんが笑った。

1歳児もキャッキョと笑ってくれる。朝の子どもたちとのまじわりが、私を幸せにしてくれる。そんな時は、犬のごんちゃんが登場する。犬には赤ちゃんも心を許してくれるようだ。とても安心した表情で接してくれます。

保育園の入園式には、いつも人形さっちゃん。40年の保育園生活、笑顔の子どもたちに囲まれとても感謝の毎日です。

- | | |
|-----------------|-----------|
| ○ コロナは続くよ どこまでも | × ホントネ |
| ○ 変異を繰り返し 生きのびる | × カナワンネ |
| ○ 昔の日常に いつもどる？ | × サテ…サテサテ |
| ○ 三年後に ただの風邪 | × ナルトイイネ |
- (線路は続くよどこまでも)



コロナ生活も長くなって、皆さんもお疲れ。そんな時は、ひと息ついて、笑って、笑って。30秒笑うことは45分じっと休むことに相当します。自然に一回大笑いすることは、3分間のエアロビクスに相当します。10回の温かいほほえみは、10分間のボート漕ぎ運動に等しいんだって。

一緒に腹話術を続けてお年寄りや子ども、皆さんに笑顔を届けましょう。お休みはあっても、とにかく続けていきましょうね。

コロナ禍のため蔓延防止・非常事態宣言等々の状態になって二年余。

毎日のように命の危険にさらされているとの報道を見聞きしていると、シニア世代70代の私たちには、どうにも心が痛くて堪えられない。

家から出ないこと。人とあまり関わらないようにすることが一番良いのでは…と家に閉じこもってしまうことが多くなった。

そんな中、学童保育・地域の老人会よりボランティアの依頼が入ったのである。

さあ、どうする???

一宮のメンバー3人で打ち合わせをした。

- ① ぜひ依頼を受ける
- ② 腹話術は人の前で演じてこそ。笑顔に出会える。
- ③ 対象の年齢に合った楽しんでいただけるプログラムを考える。
- ④ 演ずるためのコロナ対策を再確認する。



改めて、イチロー師匠・とんぼ先生に教わった腹話術を演ずるために必要な事項を話し合いながら進めていきたい。

長い間の閉じこもりで、発声に負担を感じる、また体力が落ちて台詞がスムーズに出ず、集中力がなくなっていることを思い知らされ、コロナ禍での努力の足りなさを痛感している。

今後、コロナ禍が早く収束し、人との交わりが十分に出来るようになり、笑顔で触れ合える日常の生活が取り戻せるようにと願うばかりである。

ホームページで当会員の腹話術が見られます!

師範の演技や会員の技術認定会で披露し腹話術などをアップしています。

ロゴス腹話術



● 2022年度会費 (6,000円) 納入と、合わせて寄付もお願いできると幸いです。

【会費・寄付金振込先】(名義は、“一般社団法人ロゴス腹話術研究会”です)

ゆうちょ銀行：振替口座番号 00240-2-103127

※お願い：通信欄には、お手数ですが、振り込みの内訳(2022年度会費、寄付)をご記載ください。



(絵手紙：春風赤とんぼ)

〈編集後記〉

早いもので本誌も20号となり、記念として創立者春風イチロー師匠の対談を載せてみました。腹話術との出会いと教えるに至った経緯が明るく語られています。師匠の笑顔と話し声がイメージできますね。さて42年後の現在、身近な当たり前の平和も、実はたやすく崩れかねないと思うニュースが入ってきています。また感染予防のための活動の制約は続き、寄稿して下さった方々も様々な工夫をしています。このような今こそ健康的な笑いが求められており、皆さまの腹話術を通したメッセージで聞き手の心が温められることを願っています。

発行：
一般社団法人
ロゴス腹話術研究会 事務局

〒211-0005
神奈川県川崎市中原区新丸子町734-1
アベニオ新丸子ビル402号
TEL：044-733-6650 FAX：03-6868-3638
メールアドレス：harukaze@logos.or.jp
ホームページ：https://logos.or.jp